

## — 報 告 —

## 看護系大学1年生の生活習慣と生活体験に関する全国調査

菱沼 典子<sup>1)</sup>, 佐居 由美<sup>1)</sup>, 大久保 暢子<sup>1)</sup>, 石本 亜希子<sup>2)</sup>, 佐竹 澄子<sup>1)</sup>,  
安ヶ平 伸枝<sup>3)</sup>, 大橋 久美子<sup>1)</sup>, 伊東 美奈子<sup>1)</sup>, 蜂ヶ崎 令子<sup>1)</sup>

## 抄 録

少子社会で、マニュアル化が進んだ中で育った看護系学生の、生活習慣・生活体験の現状を明らかにし、それに合わせた看護学の教授内容・教授方法への示唆を得るために、全国の看護系大学1年生を対象としたアンケート調査を行った。

無記名、自己記入式のアンケートで、調査項目は①生活習慣、②生活体験の有無、③日常生活の中での気遣い、④属性、および⑤生活している家の風呂とトイレの設備についての72項目であった。全国の看護系大学に調査協力を依頼し、79大学(50%)の1年生6,618名にアンケート用紙を配布した。回答数は4,601件(回収率69.5%)、有効回答数は4,597件(99.9%)であった。調査は2007年11月～2008年1月に実施した。本調査は筆者らの属する機関の研究倫理審査委員会の承認を得て行った。

その結果、90.1%が10代の女性で、93.1%は平均2.5人の子供がいる家庭で育ち、39.3%が祖父母との同居を経験しており、47.9%が親元を離れて暮らしていた。体験が少なかったものは、子どものオムツ替え32.9%、お年寄りの世話53.8%、病人の世話56.4%の3項目であった。習慣化されていなかった項目は、お盆を使う20.8%、シーツをのばす36.0%、湯をかき回してから湯舟に入る40.6%、食事前の手洗い52.9%であった。しかし90%以上が食器洗い、料理、洗濯、自分の部屋の掃除等を体験していた。習慣化されていないものや体験内容によって、教育内容に加える必要があるだろう。

兄弟姉妹がいる中で、さまざまな生活体験をしているという結果から、看護系大学1年生を特徴づけているのは、少子社会や生活体験の少なさではなく、社会全体の生活の利便化を背景にした“Generation Y”ではないかと考えられた。看護学の基礎教育において、学生の現状を踏まえた教育方法の工夫が必要と考えられた。

**キーワード：**看護系大学1年生、日常生活、質問紙調査、Generation Y

## I. はじめに

高等学校教育の多様化と少子化のなかで、「ゆとり教育」の世代が大学に入学するようになった。受験勉強においては勤勉や工夫より、マニュアル本によって試験に出る知識と受験技法を身につけるマニュアル化が進行しているという(樋田, 2007)。また、志望校の選択要因は知名度、入試難度、学部・学科の3つと指摘されているが(服部, 2007)、そういう中であっても、看護系大学への入学希望者は、入学意図が明確で目的意識が高いといわれてきた(小山他, 2004)。

日常生活を支援する看護の実際には、マニュアルでは解決できないその場での判断や、観察によって自分で気づくことが要求される。また、自分自身が道具となって日常生活を支えることから、学生自身の生活習慣や生活体験が学習の進度に影響する。目的意識が高くても、例えばタオルを絞れない、食事介助前に手を洗わない等が指摘されており(松下, 2002; 川田他, 2005)、看護の実際に関わる日常生活について、学生自身はどのような習慣をもち、どんな体験をもっているのかを把握することは、彼らに適した看護学の教授内容を検討する上で必要と考えた。

受付日：2010年11月16日 受理日：2010年12月27日

1) 聖路加看護大学、2) 初台リハビリテーション病院、3) 元聖路加看護大学

そこで都内の1大学の学生31名に調査を行ったところ、少子社会といえ84%は兄弟姉妹がおり、ほとんどが食器洗いや掃除、洗濯等の生活体験を有していたが、風呂の湯をかき回してから入るのは32%に留まっていた。また同時に行った、汚れたテーブルを片づける課題での実地調査で、63%はテーブルの上を片付けてもイスの乱れは片付けなかった(大橋他, 2008)。

これは限られた範囲の調査であり、看護系大学生全体の傾向とは言えないことから、全国調査を行った。本調査により、看護系大学1年生の生活習慣・生活体験の現状が明らかにできれば、それに合わせた教授内容、また教授方法を考案する基礎データになると考える。

なお本論文においては、生活習慣は日常生活の中で繰り返されて定着している行動様式、生活体験は日常の暮らしの中で実際に自分が経験したことを意味して用いている。

## II. 調査方法

### 1. 調査対象

2007年度に入学した、全国の看護系大学の1年生全員を対象とし、2007年11月～2008年1月に実施した。

### 2. 調査内容

先行研究(大橋他, 2008)で用いた33項目の生活習慣や生活体験と、実地調査で見られた生活習慣と周囲への気配りを項目に起こし、さらに指導が必要となっている食器の配置の仕方を追加した。また先行研究で湯舟の湯をかきまぜないではいる習慣の背景として、自動の温度調節機能を備えた風呂の普及が考えられたため、家の設備の項も追加した。

内容は①生活習慣29項目(洗面や手洗い、食卓の整え方、風呂の湯温の確認等)、②生活体験の有無18項目(お年寄りや病人の世話、食事作り、ゴミ捨て等)、③日常生活の中での周囲への気配り5項目(洗面台の汚れを拭くか、他人の脱いだ靴を揃えるか等)、④属性12項目(性別、年代、職歴、居住地域、家族構成等)および⑤家の風呂とトイレの設備に関する8項目である。

全72項目から成る無記名の自己記入式アンケートを作成し、看護学生にプレテストを行い、全ての項目に回答でき、回答時間が10分程度であることを確認した。

### 3. 調査手順

2007年度現在で、全国のすべての看護系大学158校の基礎看護学担当教員へ、本調査の協力を依頼した。協力が得られる場合は、1年生の学生数を連絡してもらった。

協力を得られた79校(50.0%)に、学生数に合わせて依頼文とアンケート用紙、回収用封筒ならびに回収箱を送付した。各大学で基礎看護学の教員より、学生へ依頼

文とアンケート用紙を配布してもらった。学生には各自でアンケートに回答した後、封筒に入れて封をし、回収箱に投函してもらった。回収されたアンケートは、まとめて本学へ返送してもらった。

アンケートは項目毎に、回答を集計し、割合を算出した。また属性に分類して集計した。

## 4. 倫理的配慮

本研究は対象者が学生であることから、参加の任意性を確保するために、次のような倫理的配慮を行った。

調査対象となる学生全員に、調査の主旨と内容を説明した協力の依頼文を配布した。その中で研究への参加は自由意思であること、調査は無記名で個人特定は一切できないこと、従って調査協力をしたかどうかや回答内容は、学業成績とは一切関係しないことを明記した。また、結果の発表に際しては、大学名は出さず、対象者の匿名性の保持とプライバシーの保護を約束した。

なお調査協力大学に対しては、希望に応じて調査結果の報告書を送付した。

本研究は聖路加看護大学研究倫理審査委員会の承認(07-1001)を得て実施した。また協力を得た大学のうち2大学で、当該大学の研究倫理審査委員会の承認を受けた。

## III. 結果

### 1. 回答者の背景

79大学6,618名にアンケート用紙を配布し、回答数は4,601件(回収率69.5%)、有効回答数は4,597件(99.9%)であった。性別は女性4,141名(90.1%)、男性450名(9.8%)、無回答6名で、年代は10歳代4,137名(90.0%)、20歳代412名(8.9%)、30歳以上40名(0.9%)、無回答8名であった。既婚者が19名(0.4%)、就業経験者が144名(3.1%)であった。居住地域は全国に渡っていた(図1)。

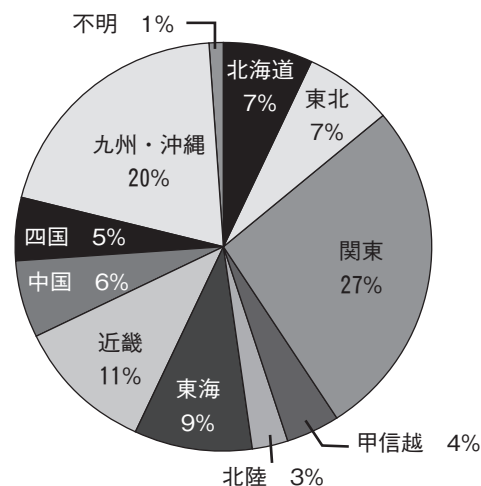


図1 回答者の居住地域 (n = 4,597)

表1 暮らしの形態

| 形態    | 人数(名) | 割合(%) |
|-------|-------|-------|
| 親元    | 2,387 | 51.9  |
| 親元以外  |       |       |
| 一人暮らし | 1,713 | 37.3  |
| 寮生活   | 310   | 6.7   |
| 兄弟姉妹  | 73    | 1.6   |
| 祖父母   | 33    | 0.7   |
| その他   | 73    | 1.6   |
| 小計    | 2,202 | 47.9  |
| 不明    | 8     | 0.2   |
| 計     | 4,597 | 100   |

生育時期の家族構成に祖父母がいたのは1,805名(39.3%)であった。兄弟姉妹がいる者は4,280名(93.1%)で兄弟姉妹の人数の平均は1.50人であった。調査時点での暮らしの形態を表1に示したが、親元にいる者と離れて暮らしている者がほぼ同数であった。

## 2. 生活習慣

生活習慣19項目について、習慣としている者が多かった項目順に表2に示した。歯磨きの習慣について表3に、外出時の手洗いの始末について表4に、食器の置き方について表5に示した。

寝具はベッド使用者が3,458名(75.2%)、布団使用者が1,031名(22.4%)であった。食事の前後にテーブルを拭くかどうかは、前後とも拭くが2,230名(48.5%)、後に拭くが1,074名(23.4%)、前に拭くが633名(13.8%)、全く拭かないが425名(9.2%)であった。湯舟に入る前の湯温確認の方法は、手や足の皮膚感覚でするが3,633名(79.0%)、温度設定の表示によるが736名(16.0%)であった。

表3 歯磨きをいつするか 【複数回答 合計欄の( )は母数】

| 起床時   | 食前   | 食後    | 寝る前   | その他  | 回答なし | 合計      |
|-------|------|-------|-------|------|------|---------|
| 1,667 | 145  | 3,312 | 2,895 | 141  | 2    | 8,162   |
| 36.3% | 3.2% | 72.0% | 63.0% | 3.1% | 0.0% | (4,597) |

表4 外出時、手を洗った後の拭き方

【複数回答 合計欄の( )は母数】

| ハンカチ  | ペーパータオル or エアータオル | 髪、洋服、荷物などに触る | 自然乾燥  | その他  | 回答なし | 合計      |
|-------|-------------------|--------------|-------|------|------|---------|
| 2,776 | 2,925             | 1,146        | 1,557 | 40   | 5    | 8,449   |
| 60.4% | 63.6%             | 24.9%        | 33.9% | 0.9% | 0.1% | (4,597) |

表2 生活習慣

(n = 4,597 上段：人数)

| 項目                    | はい             | いいえ            | その他          | 回答なし       |
|-----------------------|----------------|----------------|--------------|------------|
| トイレ後の手洗い              | 4,497<br>97.8% | 50<br>1.1%     | 42<br>0.9%   | 8<br>0.2%  |
| 朝の洗面                  | 4,454<br>96.9% | 103<br>2.2%    | 31<br>0.7%   | 9<br>0.2%  |
| 寝る時電気を消す              | 4,340<br>94.4% | 141<br>3.1%    | 95<br>2.1%   | 21<br>0.5% |
| 部屋に臭いがこもっていたら窓を開ける    | 4,276<br>93.0% | 213<br>4.6%    | 101<br>2.2%  | 7<br>0.2%  |
| 必要ない電気は消す             | 4,269<br>92.9% | 281<br>6.1%    | 28<br>0.6%   | 19<br>0.4% |
| 立ち上がった後、椅子をテーブルの下に入れる | 4,210<br>91.6% | 299<br>6.5%    | 70<br>1.5%   | 18<br>0.4% |
| 自分の部屋の掃除              | 4,178<br>90.9% | 285<br>6.2%    | 123<br>2.7%  | 11<br>0.2% |
| 寝衣に着替える               | 4,165<br>90.6% | 370<br>8.0%    | 36<br>0.8%   | 26<br>0.6% |
| 洗濯物を干すとき、しわを伸ばす       | 4,161<br>90.5% | 379<br>8.2%    | 53<br>1.2%   | 4<br>0.1%  |
| きれいなものと汚いものは別に洗う      | 4,109<br>89.4% | 446<br>9.7%    | 31<br>0.7%   | 11<br>0.2% |
| 電車の中で化粧はしない           | 3,828<br>83.3% | 640<br>13.9%   | 100<br>2.2%  | 29<br>0.6% |
| 脱いだ自分の靴を揃える           | 3,492<br>76.0% | 943<br>20.5%   | 143<br>3.1%  | 19<br>0.4% |
| シーツは自分で替える            | 3,331<br>72.5% | 1,165<br>25.3% | 81<br>1.8%   | 20<br>0.4% |
| 湯舟に入る前に湯の温度を確認する      | 3,038<br>66.1% | 1,497<br>32.6% | 57<br>1.2%   | 5<br>0.1%  |
| 食事前の手洗い               | 2,431<br>52.9% | 1,646<br>35.8% | 493<br>10.7% | 27<br>0.6% |
| 湯をかき回してから湯舟に入る        | 1,865<br>40.6% | 2,644<br>57.5% | 84<br>1.8%   | 4<br>0.1%  |
| 電車の中で床に荷物は置かない        | 1,703<br>37.0% | 2,676<br>58.2% | 192<br>4.2%  | 26<br>0.6% |
| 寝る前にシーツを伸ばす           | 1,654<br>36.0% | 2,867<br>62.4% | 55<br>1.2%   | 21<br>0.5% |
| コップや食器はおぼん等にのせて運ぶ     | 956<br>20.8%   | 3,488<br>75.9% | 146<br>3.2%  | 7<br>0.2%  |

表5 食器の置き方

(n = 4,597)

|      | 左     | 右     | 中央    | 上     | 下     | その他  | 回答なし |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 飯茶碗  | 2,994 | 928   | 187   | 20    | 357   | 76   | 35   |
|      | 65.1% | 20.2% | 4.1%  | 0.4%  | 7.8%  | 1.7% | 0.8% |
| 汁椀   | 987   | 2,702 | 89    | 548   | 151   | 80   | 40   |
|      | 21.5% | 58.8% | 1.9%  | 11.9% | 3.3%  | 1.7% | 0.9% |
| 主菜の皿 | 116   | 290   | 2,302 | 1,718 | 74    | 58   | 39   |
|      | 2.5%  | 6.3%  | 50.1% | 37.4% | 1.6%  | 1.3% | 0.8% |
| 箸    | 26    | 64    | 66    | 28    | 4,280 | 116  | 17   |
|      | 0.6%  | 1.4%  | 1.4%  | 0.6%  | 93.1% | 2.5% | 0.4% |

「その他」の回答が多かった食事前の手洗いは、時々するが300名含まれていた。少数ながら洗濯物の干し方について、乾燥機があり干したことがないという回答もあった。また風呂に関しては、少数であるが湯舟に入らないという回答があった。

### 3. 生活体験

生活体験の18項目について、体験者が多い項目順に表6に示した。生育時期の家族構成に祖父母がいたのは39.3%であったが、「お年寄りと生活したことがある」のは64.8%で、短期間の体験があるという回答もあった。

### 4. 日常生活の中での気配り

洗面台に髪の毛が落ちていたら、そのままにするかに対しては、「しない」が3,883名(84.5%)、「そのまま」が575名(12.5%)、洗面所や台所の水まわりに水がこぼれていた場合、拭くかどうかは、「拭く」が3,649名(79.4%)、「拭かない」が812名(17.7%)であった。他人の口の周りに食べ物が付いていたら気になるかどうかは、4,404名(95.8%)は「気になる」、179名(3.7%)は「気にならない」と答えていた。脱いである他人の靴を揃えるかどうかは、「揃える」が2,488名(54.1%)、「揃えない」が1,830名(39.8%)であった。自分の前を、歩道一杯に横に並んで歩いている人々がいて、追い抜きたい時、声をかけてよけてもらうかどうかについて、「声をかけない」が2,617名(56.9%)、「声をかける」は1,813名(39.4%)であった。

### 5. 属性による違い

全ての項目について、地域別・男女別・兄弟姉妹別・暮らしの形態別に集計した。地域別では外出時のハンカチの使用に関して、東海地方が70%を超え、北海道・東北地方が30%台で、他は50~60%台という傾向が見られたが、他の項目は変わりがなかった。

男女別では母数に大きな差があるが、割合が10%程度異なっていた項目を挙げると、「ハンカチの使用」が女性65%、男性22%、「花瓶の水替え」の体験が女性は85.8%で、男性は59.6%、「洗濯物を干すときしわをの

表6 生活体験の有無 (n = 4,597 上段：人数)

| 項目             | はい    | いいえ   | その他  | 回答なし |
|----------------|-------|-------|------|------|
| 雑巾や台ふきんを絞る     | 4,585 | 4     | 1    | 7    |
|                | 99.7% | 0.1%  | 0.0% | 0.2% |
| 洗濯物たたみ         | 4,576 | 17    | 0    | 4    |
|                | 99.5% | 0.4%  |      | 0.1% |
| 食器洗い           | 4,557 | 28    | 3    | 9    |
|                | 99.1% | 0.6%  | 0.1% | 0.2% |
| 固形石鹸の使用        | 4,551 | 38    | 2    | 6    |
|                | 99.0% | 0.8%  | 0.0% | 0.1% |
| 雑巾を使った拭き掃除     | 4,547 | 40    | 2    | 8    |
|                | 98.9% | 0.9%  | 0.0% | 0.2% |
| 食事作り           | 4,471 | 119   | 6    | 1    |
|                | 97.3% | 2.6%  | 0.1% | 0.0% |
| 洗濯機での洗濯        | 4,457 | 133   | 1    | 6    |
|                | 97.0% | 2.9%  | 0.0% | 0.1% |
| 風呂場の掃除         | 4,441 | 145   | 4    | 7    |
|                | 96.6% | 3.2%  | 0.1% | 0.2% |
| ナイフや包丁で果物をむく   | 4,398 | 186   | 8    | 5    |
|                | 95.7% | 4.0%  | 0.2% | 0.1% |
| 着物(浴衣)を着る      | 4,341 | 234   | 2    | 20   |
|                | 94.4% | 5.1%  | 0.0% | 0.4% |
| ゴミ捨て           | 4,279 | 306   | 2    | 10   |
|                | 93.1% | 6.7%  | 0.0% | 0.2% |
| 花瓶の水替え         | 3,824 | 703   | 59   | 11   |
|                | 83.2% | 15.3% | 1.3% | 0.2% |
| トイレの掃除         | 3,635 | 952   | 7    | 3    |
|                | 79.1% | 20.7% | 0.2% | 0.1% |
| 手での洗濯          | 3,580 | 994   | 16   | 7    |
|                | 77.9% | 21.6% | 0.3% | 0.2% |
| お年寄りと生活したことがある | 2,979 | 1,586 | 13   | 19   |
|                | 64.8% | 34.5% | 0.3% | 0.4% |
| 病人の世話          | 2,593 | 1,963 | 20   | 21   |
|                | 56.4% | 42.7% | 0.4% | 0.5% |
| お年寄りの世話        | 2,471 | 2,087 | 15   | 24   |
|                | 53.8% | 45.4% | 0.3% | 0.5% |
| 子どものオムツ替え      | 1,513 | 3,052 | 12   | 20   |
|                | 32.9% | 66.4% | 0.3% | 0.4% |



表7 風呂の湯温の保温機能の有無

|                      | はい    | いいえ   | その他  | 回答なし | 合計     |
|----------------------|-------|-------|------|------|--------|
| 育った家                 | 1,912 | 2,254 | 31   | 367  | 4,564  |
|                      | 41.9% | 49.4% | 0.7% | 8.0% | 100.0% |
| 現在の住まい<br>(上記と異なる場合) | 1,400 | 1,256 | 20   | 53   | 2,729  |
|                      | 51.3% | 46.0% | 0.7% | 1.9% | 100.0% |

表8 トイレの設備

【複数回答 合計欄の( )は母数】

| 排泄後の流し方              |  | 手動水洗  | 自動水洗  | 汲み取り式 | その他  | 回答なし | 合計      |
|----------------------|--|-------|-------|-------|------|------|---------|
|                      |  | 育った家  | 3,969 | 200   | 45   | 6    | 354     |
|                      |  | 87.0% | 4.4%  | 1.0%  | 0.1% | 7.8% | (4,564) |
| 現在の住まい<br>(上記と異なる場合) |  | 2,374 | 190   | 122   | 11   | 42   | 2,739   |
|                      |  | 87.0% | 7.0%  | 4.5%  | 0.4% | 1.5% | (2,729) |

| 換気の方法                |  | 窓を開ける | 換気扇を<br>まわす | 便器に換気<br>機能がある | その他  | 回答なし | 合計      |
|----------------------|--|-------|-------------|----------------|------|------|---------|
|                      |  | 育った家  | 1,438       | 2,741          | 265  | 73   | 359     |
|                      |  | 31.5% | 60.1%       | 5.8%           | 1.6% | 7.9% | (4,564) |
| 現在の住まい<br>(上記と異なる場合) |  | 1,300 | 1,469       | 197            | 34   | 41   | 3,041   |
|                      |  | 47.6% | 53.8%       | 7.2%           | 1.2% | 1.5% | (2,729) |

| 便器に掃除機能<br>がある       |  | はい    | いいえ   | その他   | 回答なし | 合計     |
|----------------------|--|-------|-------|-------|------|--------|
|                      |  | 育った家  | 768   | 3,382 | 50   | 364    |
|                      |  | 16.8% | 74.1% | 1.1%  | 8.0% | 100.0% |
| 現在の住まい<br>(上記と異なる場合) |  | 659   | 1,982 | 27    | 61   | 2,729  |
|                      |  | 24.1% | 72.6% | 1.0%  | 2.2% | 100.0% |

ばさない」女性は7.1%，男性は18.4%，「寝衣への着替え」をする女性は91.8%，男性80.7%，「道で声をかけてよけてもらう」は女性では40.3%，男性は31.8%であった。「お年寄りとの生活の体験」があるのが、女性63.8%に対し、男性は74.4%と多かった。

兄弟姉妹の有無別でもいない者が少なく、比較はできないが、「子どものオムツ替え」が兄弟姉妹がいる場合は33.7%に対し、いない場合は23.3%であった。兄弟姉妹がいる者の中では、兄がいる場合は30.3%，姉がいる場合は31.0%，弟、妹がいる場合いずれも41.9%が体験していた。また弟妹の数が1人では31.8%，2人では53.5%，3人では77.3%と、多いほど体験の割合が高くなっていった。

暮らしの形態別では、親元にいるか離れて暮らしているかによって、実施の割合が異なっていた。シーツの交換を自分でしている割合は、親元では54.3%，離れている場合は92.2%，トイレの掃除の体験は63.2%に対して96.1%，他人の脱いだ靴を揃えるのは48.5%に対し60.3%であり、いずれも親元以外で暮らす者の方が割合

が多かった。しかし親元以外でも、祖父母と暮らしている場合は、花瓶の水替え、部屋の掃除、トイレ掃除、シーツ替え、他人の靴を揃える、洗面所の汚れを始末する割合が低く、電車の中で化粧をする割合が高かった。

## 6. 風呂とトイレの設備

風呂の湯温が自動で一定に保たれる設備があるかについて表7に、トイレの設備について表8に結果を示した。

## IV. 考察

調査結果から、看護系大学の1年生は9割が10代の女性で、平均2.5人の子供がいる家庭で育ち、4割は祖父母と暮らした経験があり、約半数が親元を離れて暮らしていることがわかった。以下、看護教育の教授内容や方法に対する示唆を3点考察する。

### 1. 生活習慣からみた教育内容変更への示唆

生活習慣は表2～5にみるように全員が揃う項目はな

かった。例えば入浴時に湯舟の温度を確認しない者が32.6%おり、患者の入浴介助ではこの項を教育内容に含めていく必要がある。同様に今回の調査内容で習慣化されていないものは、教育内容に含めていく必要があろう。

習慣化されていない項目を組み合わせると、食事前に手洗いをせず、テーブルを拭かずに、手で食器を運んでくるという像が伺えた。食事前の手洗いの率は、2000年に実施された佐藤他(2002)の調査結果と同様であった。これらの結果は、看護学基礎教育においては、できて当たり前とみなすのではなく、学生自身の生活習慣の確認と、それに対応した教育内容の変更の必要性を示唆している。

## 2. 生活体験からみた教育内容変更への示唆

1980年代から看護学生の生活体験が少ないと繰り返し指摘されてきたが、今回の結果から生活体験が少ないという見方は必ずしも成り立たなかった。表6にみるように、調査項目18項のうち11項目は90%以上の者が体験をしていた。

最も少なかったのが子どものオムツ替えの32.9%であった。病人の世話とお年寄りの世話の体験がある者はいずれも約半数であった。93%は兄弟姉妹がおり、39%は祖父母と暮らした経験がある背景の学生ではあるが、子どもやお年寄りまた病者のイメージがつかない中で、学びが始まっていることが改めて明らかになった。この現状に対し、具体的なイメージが付く教材の工夫がより一層求められよう。

雑巾を絞る、食事作りをするなどの体験があるにもかかわらず、生活体験が少ないと思わせられる背景には、何があるのだろうか。今回の調査から、手での洗濯より洗濯機での洗濯の体験が多く、湯温が一定に保たれる風呂がある者が半数おり、自動洗浄や掃除機能のあるトイレがわずかではあるが家庭内にも普及していた。これは、生活に使う道具の電化が生活動作を簡便化しており、同じ生活体験でも、その内容が異なっていることを示唆している。佐藤他(2002)も手指を使わないで済む利便性の高い様々な生活用品があり、簡便な道具が使われていると指摘している。体を使わないで生活ができるように、社会全体が移行している中で育ったという学生の背景を理解し、学生の「できる」と教員の「できるはず」の内容に差がないかどうかを確認しながら、教育内容を考えるべきだろう。

## 3. 日常生活の中での周囲への気配り

洗面台の汚れをそのままにする者が13~18%おり、他人の脱いだ靴を揃えるのは半数にとどまっていた。道路いっぱい歩いている人を追い抜きたいとき、声を掛けない方が、掛けるを上回っていた。他者との関わり方や気配りも、幅がある結果になった。例えば患者のスリッパが反対を向いていても気がつかない、直さない場面に

出会うのは50%の頻度と予想される。

筆者らは、教員への聞き取り調査から、学生の特徴を“Generation Y”ととらえることを提唱した(安ヶ平他, 2010)。“Generation Y”は、1982年以降に生まれた世代で、コンピュータと共に育ち、図書館で調べるよりもインターネットで情報を得ることを得意とし、争うよりはうまく仲よくすることを好むと言われている(Johnson et al., 2005)。これは声をかけずに我慢する行動をよく説明でき、合理的なプロセスを追うことで、労なく目的に達することを意味するマニュアル化(樋田, 2007)とも共通する。学生を“Generation Y”として捉えることが、学生の行動を理解し、教育方法の工夫を図るのに有益ではないだろうか。電子情報を上手に使うと同時に、手間暇かけて学ぶことを取り入れていく必要もあると考える。

## V. 終わりに

本調査から、学生の生活習慣や生活体験の内容に合わせて、教育内容を変更する必要があることが示唆された。また看護系大学1年生を特徴づけるのは、社会全体の生活の利便化を背景にした“generation Y”ではないかと考えられた。学生の現状に合った教育内容の変更や教育方法の工夫を行いながら、考える力が付く教育を進めていきたい。

本研究は文部科学省科学研究費基盤研究B『少子化社会の学生の特性に合わせた看護導入プログラムの開発』(課題番号19390551)によって行われた研究の一部であり、本稿の一部はthe 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (2009)にて発表した。

## 引用文献

- 服部周憲 (2007). 全入時代—変化する大学入試・変化する受験生. *IDE 現代の高等教育*. 489. 32-37.
- 樋田大二郎 (2007). 高校生の受験文化—低い動機付けとマニュアル化. *IDE 現代の高等教育*. 489. 27-32.
- Johnson, Susann A. Romanello, Mary L. (2005). Generation Diversity—Teaching and Learning Approaches. *Nurse Educator*. 30(5). 212-216.
- 川田智美, 木村由美子, 木暮深雪他 (2005). 看護教員が学生の生活体験の乏しさを感じた実習場面. *群馬保健学紀要*. 26. 133-140.
- 小山真理子, 植村由美子, 藤原ゆかり他 (2004). 看護学生の大学入学時の学習への期待および看護・看護職についての認識. *神奈川県立保健福祉大学誌*. 1(1). 85-94.
- 松下由美子 (2002). 現代の看護短大生の日常生活体験.

日中医学大会第8回日中看護学交流会. 50-52.  
大橋久美子, 菱沼典子, 佐居由美他 (2008). 看護大学  
入学生の生活体験. 聖路加看護学会誌. 12(2). 25-  
32.  
佐藤真澄, 松田日登美, 柿原加代子 (2002). 看護短大

生における生活体験および生活習慣の変化. 日本赤十  
字愛知短期大学紀要. 13. 1-10.  
安ヶ平伸枝, 菱沼典子, 大久保暢子他 (2010). 基礎看  
護学担当教員の捉える学生の特徴と教授学習方法の工  
夫. 聖路加看護学会誌. 14(2). 46-53.

# A Survey on the Experience of Daily Life Activities of the Freshman of the Nursing Colleges and Universities in Japan

Michiko Hishinuma <sup>1)</sup>, Yumi Sakyo <sup>1)</sup>, Nobuko Okubo <sup>1)</sup>,  
Akiko Ishimoto <sup>2)</sup>, Sumiko Satake <sup>1)</sup>, Nobue Yasugahira <sup>3)</sup>,  
Kumiko Oohashi <sup>1)</sup>, Minako Ito <sup>1)</sup>, Reiko Hachigasaki <sup>1)</sup>

1) St. Luke's College of Nursing, 2) Hatsudai Rehabilitation Hospital,

3) Former St. Luke's College of Nursing

The aim of this research was to identify the experiences of daily life activities of freshmen in nursing schools. This has implications for what and how we teach in our nursing courses.

The questionnaire survey was distributed to 6,618 nursing students of 79 colleges and universities across Japan. Data were collected November 2007 to January 2008. The questionnaire queried students about their experiences of daily life activities as freshman nursing students. Human subjects protection protocol was strictly followed, e.g. all data were kept anonymous and confidential. The college research ethics committee approved the survey and research process.

Collected questionnaires were 4,601 (69.5 %), and 4,597 were valid. The majority, 90 %, was female; 93 % had brothers or sisters (M=1.5); 39% lived with their grandparents and 48% moved from their homes to attend nursing school. Half of the students had cared for older people (54%) and sick people (56%), and 33% of them had changed baby's diaper. Regarding meals, 79% of them did not use the traditional tray, and half of them did not wash their hands before eating. Regarding housework, they had experience: washing dishes (99 %), cooking (97 %), housecleaning (91%) and washing clothes (97%).

The results showed the nursing students have brothers or sisters, and they have adequate experience doing housework. This suggests that students' lack of housekeeping ability was not a result of too few siblings or lack of housekeeping opportunity. The characteristics of Japanese nursing freshman were similar to the characteristics of Generation Y. The results provide the basic data to restructure the introduction to nursing courses and to change teaching methods to address the learning needs of the students from this generation.

**Keywords** : freshman nursing student, daily life, questionnaire survey, Generation Y